

入園初めの一ト月

初めの一ト月。お子さんにとつては、全くの新経験ですからね。相當氣づかれもありませうさ。今までの我家と違つて、見ず知らずの人間はつきり。先生は、そりやお観音さまのやうに優しいし、友達は小天使の群のやうに可愛らしいが、それだつて、うちのお母さまや、きやうだいのやうな譯にはいかない。さあ、皆さんといふ、先生のお聲は嬉しいが、その皆さんといふのは、自分ひとりのことではないらしい。こゝへ来て初めて聞く日本語である。小天使群は、どれも自分と同じやうな顔をしてゐて、頗る組し易いと思つたが、二日三日と、なれて来るに従つて、いづれも一癖ある連中で、自分の思ふ通りにはなつて呉れず。之れ亦、こゝに来て初めて出合った日本人達である。……といつた譯で、何だかわや

わやと、我家とは違つた味の濃い世界に取圍まれて、面白ければ面白いなりに、引きつけられ、ば引きつけられるなりに、何んといつても、氣の張ることです。幼稚園の方では、そこを充分の上にも充分に察して、出来るだけ自然に、出来るだけあつさりにと、保姆さんは、それで却つて骨が折れる位にしてゐるので、それがそれだつて、すぐ、すつかり幼稚園の子になり切れないところがあつても、無理はありません。

ですから、泣いたつていゝのです。口をきかなくても、遊戯にはいらなくても、少々位あはれてもいゝのです。時には、目からはばかりでなく、下の方から水をもらしたつて構はないのです。そんなことに驚く幼稚園じやありません。たゞ、家庭の方で、どうかすると餘計なお氣がねをなさつて、幼稚園に行つたら、やれ泣くな、やれおとなしくしろ、やれ早速良い子になれと、朝出る時厳命し、歸ると今日はどうだつた、訊問し、折角の幼

稚園を、きゆうくつなものにして仕舞つたりされます。それで、どうかすると、幼稚園はいやだなんて思はせたりするのです。又、あんなことじや、幼稚園の先生、何をしてゐるのかと、不信任を投げつけたりせられるのですが、まあ、どうぞ、そんなにあせらないで、平氣であつて下さい。そして、坊や、さぞお疲れだらうねなんて言はなくていゝのですが、朝は、幼稚園の面白いことを話して楽しく送り出す。歸つては、その日のことなんか一問ひつめたりしないで、好きなおやつをいつしよにたべて、話し出したら聞いてやる位にする、さうして、榮養と睡眠とに、一段の注意をして、内の方から疲勞の恢復を補つてやる。萬端さういつた調子でやつて頂きたいのです。子どもさんによつては、初めから、こんな心づかひのいらぬのもありますし、あつたつて、なかに、初めの間だけのことで。

× × × × × × × ×